

V 学生の受入れ

V 学生の受け入れ

1. 学生募集

1.1 学生の募集方針

本校の使命の教育に関する部分として、以下（資料5-1-1）に示す優秀な人材の育成を目的としている。

資料5-1-1

教育の使命

人間味豊かで、創造力があり、如何なる困難にも屈しない強固な意志と厳しい試練にも耐える強健な身体を持ち、豊かな教養があり、工学についての基礎学力が十分で、実践的技術に優れた人物を育成する。

（「学校要覧」より）

上記使命を達成するために、工業分野への進路を希望する中学生の中から、高専教育を理解し、高い資質と適性を有する優秀な人材を確保することを、学生の募集方針の基本とする。また、アドミッションポリシーは下記（資料5-1-2）のように定め、学校案内、編入学生募集要項、専攻科学生募集要項等に明示して各方面に配付、県下中学校に対する学校説明資料に明記するほか、本校ホームページで公開している。また、教務委員会を中心に入学後における学力動向やアドミッションポリシーに沿った学生が入学しているかを継続的に調査分析し、入試選抜方法の改善に役立てている。

資料5-1-2

アドミッションポリシー

明石工業高等専門学校は、自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような方の入学を期待しています。

【本科のアドミッションポリシー】

1. 工学に興味を持ち、将来技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目および英語が得意な人
3. さまざまな実験や実習に興味を持って取り組める人

【編入学者向けのアドミッションポリシー】

1. 数学および英語に関して工学教育を受けるための必要な学力を有する人
2. 専門的基礎学力に優れている人
3. さまざまな実験や実習に興味を持って取り組める人

【専攻科のアドミッションポリシー】

1. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目及び英語が得意な人
2. 最も得意とする専門分野の基礎能力を身に付けている人
3. 自己の専門分野以外をも学習する意欲があり、自然や社会との共生に関心のある人

（本校ホームページ等より）

高専をめぐる社会情勢は、学齢人口の減少、高学歴・大学志向、理工系離れなど志願者募集にとって厳しいものであり、また本校は多くの理工系高等教育機関と競合する立地条件下にある。このような状況を踏まえ、早期より諸種の方策を立てて高専の理解を深める広報活動を積極的に展開し、意欲的で優秀な志願者を募集することを基本方針として取り組んできた。入学志願者対策は本校の最重要課題で、入学志願者確保委員会（平成 25 年度以前は入学志願者確保検討専門委員会・ワーキンググループ）を中心に、本校の PR 活動や入試方法を改善し、本科入学志願者確保の対策を検討実施してきた。

1.2 学生募集のための広報活動

学生募集に向けた広報活動として、本校の教育の趣旨と特徴をPRするために、県下約250校の中学校訪問の他、中学校教員との懇談会・オープンキャンパス・学校説明会・中学生を対象とした公開講座・出前講義の開催、各種の学校案内資料の作成と配付など、広報活動を広範に展開している。また、本校ホームページにアドミッションポリシーを公開している。以下に広報活動の概要を示す。

(1) 生徒・保護者への広報活動

1) オープンキャンパス

内容：各学科の特色を生かし、学科内容が理解できるプログラムに則り、技術体験の提供と進学相談

時期：8月下旬の土曜日を含む2日間

2) 学校説明会

内容：学校概要・学科選択指針、募集要項に基づく入試説明、質疑応答

時期：10月中旬～12月初旬、本校（2回）・姫路（2回）・小野・三田・神戸・西宮・尼崎（奈良高専と合同）・大阪（2回。奈良高専または近畿地区国立高専と合同）の会場で、実施日をずらして実施

3) 学外主催学校説明会

内容：塾の生徒・保護者を対象に、学校概要・学科選択指針、募集要項に基づく入試説明、質疑応答

時期：6月中旬～11月中旬、複数の地区・機関（学習塾など）により開催

(2) 中学校との連携、広報活動

1) 中学校長会との定期懇談会

内容：県内8学区の代表校長との入試、教育全般の懇談

時期：6、7月と11、12月（2回）

2) 入試懇談会

内容：中学校の進路担当教諭を対象に、募集要項に基づく入試説明、質疑応答、学内見学

時期：9月下旬～10月初旬、本校及び姫路・西宮・三田・豊岡の会場で開催

3) 明石学区教育懇談会

内容：本校の地元である明石学区の中学校長・進路担当教諭との、高専教育や同学区出身学生の学業状況などに関する懇談

時期：6月下旬

4) 中学校訪問

内容：入学者募集関係資料、当該中学校出身学生の修学状況資料等を提供し、懇談的な入学

案内

5) 学習塾対象説明会

内容：学習塾講師を対象に、募集要項に基づく入試説明、質疑応答、学内見学

時期：9月初旬、本校会場で開催

(3) 学校案内資料の作成と配付

表5-1-1 各種冊子名と配付数（平成27年度）

資 料 名	部 数
準学士課程入学者募集要項	4,700
専攻科入学者募集要項	300
編入学生募集要項	250
学校案内（中学生向け）	8,500
学校要覧	800
学校紹介リーフレット	65,000
オープンキャンパスリーフレット	5,900
学校説明会リーフレット	6,000

(4) 学生募集関係諸活動参加者数

表5-1-2 学生募集関係諸活動参加者数

行 事 名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
オープンキャンパス	801	897	735	738	847
学校説明会	578	694	624	603	546
入試懇談会	114	133	131	116	129
学習塾説明会	4	4	5	8	8

ここ5年間の主要な活動の参加者数は表5-1-2に示すとおりである。各種広報活動の効果を見極めつつ、状況の変化に対応した効果ある運営方法の検討、各種案内資料の改善などを行ってきているが、ここ5年間の中では受験者が減少しており、今後さらに継続的な努力が必要である。

2. 準学士課程入学者選抜

2.1 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査によるものと、推薦によるものとの二つの方法で行い、いずれにおいても志願者の基礎学力・資質・適正を多面的に正確かつ公平に判断し選考することを基本としている。選抜にあたっては、入学者受け入れ方針としてアドミッションポリシーを制定し、学校案内や本校ホームページ等を通じて広く周知している。

学力検査による場合は、学力検査の結果にあわせ中学校における学業成績も十分に考慮して選考を実施し、学力検査成績・調査書の二つを総合して選抜する。学力検査は、国語・社会・数学・理科・英語の5教科について行い、調査書のうち学習状況の記録については中学校3年間の状況をすべて対象として考慮する。

推薦による場合は、中学校長から推薦された者の中から、中学校における学業成績・人物・志望理由・適正・関心などを広く総合的に判断して、本校教育に相応しい入学者を選抜することを旨とし、その人数は平成22年度入試より各学科とも入学定員の50%程度としている。中学校長の推薦を得る要件としては、学業・人物ともに優秀である者、当該学科への志望理由が明白・適切で、志望学科に対し適性・関心を有する者とする。以上の方針に基づき、推薦書・調査書・面接結果を総合して選抜す

る。推薦による入学者の入学後の学業成績は優秀で、中学校時の成績・人物・その他との相関が高い。推薦選抜については、今後さらに多様な選抜方法を検討していく予定である。

2.2 学生定員の充足状況

過去5年間の志願者数、合格者数、入学者数は表5-2-1に示すとおりである。

表5-2-1 志願者・入学者数等一覧

年度	学 科	入学定員	志 願 者		合 格 者		入 学 者		倍 率	
			全体	内推薦	全体	内推薦	全体	内推薦	全体	内推薦
24年度	機 械 工 学 科	40	88(3)	71(3)	22(0)	21(2)	22(0)	21(2)	2.2	3.4
	電 気 情 報 工 学 科	40	68(7)	48(7)	21(3)	21(4)	21(3)	21(4)	1.7	2.3
	都市システム工学科	40	64(16)	43(13)	22(2)	21(8)	22(2)	21(8)	1.6	2.0
	建 築 学 科	40	49(22)	37(17)	21(6)	21(9)	21(6)	21(9)	1.2	1.8
	合 計	160	269(48)	199(40)	86(11)	84(23)	86(11)	84(23)	1.7	2.4
25年度	機 械 工 学 科	40	86(9)	71(9)	21(3)	21(3)	21(3)	21(3)	2.2	3.4
	電 気 情 報 工 学 科	40	75(4)	50(4)	22(1)	21(2)	22(1)	21(2)	1.9	2.4
	都市システム工学科	40	43(8)	34(7)	22(0)	21(6)	22(0)	21(6)	1.1	1.6
	建 築 学 科	40	94(34)	73(26)	21(4)	21(11)	21(4)	21(11)	2.4	3.5
	合 計	160	298(55)	228(46)	86(8)	84(22)	86(8)	84(22)	1.9	2.7
26年度	機 械 工 学 科	40	54(2)	43(2)	21(0)	21(1)	21(0)	21(1)	1.4	2.0
	電 気 情 報 工 学 科	40	62(8)	41(6)	21(2)	21(4)	20(1)	21(4)	1.6	2.0
	都市システム工学科	40	48(11)	36(11)	21(3)	21(9)	21(3)	21(9)	1.2	1.7
	建 築 学 科	40	66(27)	53(21)	22(6)	21(11)	22(6)	21(11)	1.7	2.5
	合 計	160	230(48)	173(40)	85(11)	84(25)	84(10)	84(25)	1.4	2.1
27年度	機 械 工 学 科	40	57(3)	45(2)	22(2)	21(1)	22(2)	21(1)	1.4	2.1
	電 気 情 報 工 学 科	40	65(6)	48(5)	21(0)	21(2)	21(0)	21(2)	1.6	2.3
	都市システム工学科	40	51(13)	40(12)	22(3)	21(9)	21(3)	21(9)	1.3	1.9
	建 築 学 科	40	59(23)	48(19)	21(5)	21(12)	21(5)	21(12)	1.5	2.3
	合 計	160	232(45)	181(38)	86(10)	84(24)	85(10)	84(24)	1.5	2.2
28年度	機 械 工 学 科	40	66(6)	50(5)	21(3)	21(3)	21(3)	21(3)	1.7	2.4
	電 気 情 報 工 学 科	40	63(11)	49(7)	21(2)	21(5)	21(2)	21(5)	1.6	2.3
	都市システム工学科	40	50(11)	35(9)	21(1)	21(8)	21(1)	21(8)	1.3	1.7
	建 築 学 科	40	51(18)	34(14)	21(4)	21(11)	20(4)	21(11)	1.3	1.6
	合 計	160	230(46)	168(35)	84(10)	84(27)	83(10)	84(27)	1.4	2.0

(注) () は女子学生を内数で示す。

志願者数としては学科により変動はあるものの、全体としては定員のほぼ1.5倍前後となっている。この倍率は前回の自己点検時の5年間の平均1.52に対し、平成28年度までの5年間の平均1.56と微増となっている。本校では、入学志願者の確保の為、中学校長連絡協議会への出席による情報交換を行い、高専の理解を高めたり、本校主催の入試懇談会や学校説明会を年間で15回程度実施したりするなどをしており、これらの活動が実を結んでいると考えている。加えて、女子学生への積極的なアピールとして、女子中学生向けのパンフレットの中学校への配布、高専女子フォーラムでの入試相談コーナーの設置などの活動も行っている。この活動時の志願者数における女子比率は約20%であった。一方で、かつては2倍近くあった倍率が減少している要因として、1) 兵庫県では高等学校か高等専門学校での専願が原則であり、その選択も中学校側が安全志向で指導される傾向が強く、県内の各高校の

倍率は低く、倍率は1倍を切るところも多いこと、2) 公立高等学校の総合選抜がなくなり、複数志願制になったこと、3) 中高一貫校の設置や高専と競合するような特色学科ができて中学生の選択肢が増えたこと、4) 本校は中学校側に難関校とみられており、敬遠される傾向があること、5) 兵庫県高等学校の学区再編により受験校の選択の自由度が大幅に上がったこと等が考えられる。これらのことを踏まえて、さらに入学者確保の具体的対策を検討し、実行する必要がある。

過去5年間の各学科の在学者数の推移は表5-2-2に示すとおりである。女子学生についてはいずれの学科にも在学し、在学者数に対する女子学生の比率は毎年おおむね18%強となっている。この数値は、前回の自己点検時の15%から増加しており、前述のアピール活動の結果と考えられる。また、学科別で見ると建築学科では、5年間の平均で学科定員の約36%、都市システム工学科では約20%であり、女子学生の割合が高い。

表5-2-2 在学者数の推移

学 科	学年定員	学科定員	H23	H24	H25	H26	H27
機械工学科	40	200	212 (6)	213 (6)	219 (13)	216 (12)	221 (13)
電気情報工学科	40	200	213 (11)	213 (18)	214 (18)	212 (22)	215 (21)
都市システム工学科	40	200	209 (39)	208 (44)	212 (43)	211 (45)	211 (47)
建築学科	40	200	212 (76)	211 (77)	213 (73)	216 (79)	218 (78)
合 計	160	800	846 (132)	845 (145)	858 (147)	855 (158)	865 (159)

(注) () 内は女子学生を内数で示す。

3. 編入学者選抜

本校では、昭和51年度より、工業高校から高専4年次への編入学生を受け入れている。本制度は、地元工業高校からの要請に基づき、学内関係各部の検討を経て実施が決定された。その目的は、工業高校卒業者に高専進学のを開き、さらに高度な専門教育を受ける機会を提供することにあるが、併せて、異なる教育制度からの学生の受け入れが高専学生への刺激となることが期待されるところにある。選抜方針としては、編入学者選抜用のアドミッションポリシーを制定し、本校ホームページや編入学募集要項などで広く周知している。

編入学生の受け入れにあたっては、工業高校における教育課程を十分に考慮しつつも、本校教育に相応しい基礎学力と能力を備えた人材の選考を基本方針とし、学力検査成績と面接、調査書を総合して選考を行っている。

最近5年間における編入志願者及び入学者の状況は、表5-3-1に示すとおりである。年度により、また、学科により志願者・入学者ともに違いがあるが、この原因としては、本制度実施以来本校が期待する学力の基準が幾分高く、編入学試験が高校側から見て難関視されていること、さらに工業高校においても近年推薦入学などによる大学進学志向が増大していること、編入学試験実施時期などによるものと考えられる。

編入学合格者については、本校教育への円滑な導入を図るために、基礎科目の事前指導も計画的に実施してきた。入学者は卒業までの2年間、学業に多大の努力を注ぎ、良好な成果を挙げている者が多い。

表5-3-1 編入学志願者・入学者数一覧

学科	募集人員	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
機械工学科	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
電気情報工学科	若干名	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)
都市システム工学科	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
建築学科	若干名	2 (2)	2 (1)	2 (1)	3 (2)	1 (1)
合計		3 (3)	2 (1)	2 (1)	5 (2)	3 (1)

(注) () 内数字は入学者数を示す。

4. 専攻科入学者選抜

4.1 選抜方法

専攻科は、高等専門学校卒業生及びリフレッシュ・リカレント教育を希望する企業派遣生を対象としている。専攻科に入学する学生として、アドミッションポリシーに適合することに加えて、学業成績あるいは勤務成績が優れていること、工学的知識・技術の修得や研究への取組みに熱心であること、国際的に活躍できる技術者を目指していること等が求められる。専攻科の入学者選抜は、推薦選抜と学力選抜の2回を実施している。

推薦選抜は、学校長推薦と社会人特別推薦の2つがあり、成績（学業成績あるいは勤務成績）及び人物がともに優れており、専攻科への入学意志が早期に確立している者を選抜することを目的としている。学校長あるいは所属企業等の長の推薦及びTOEICスコア400点以上（又は、英検準2級、TOEFLスコア437点（PBT）・41点（iBT））を出願時2年以内に取得していることを出願資格として、調査書と面接から選考している。

学力選抜は、数学・専門科目の学力試験、英語（TOEICスコアから換算）、調査書及び面接から選考している（平成25年度入試までは、英語も学力試験で評価）。これらの配点は、学力試験150点（数学50点、専門科目100点）、英語50点、調査書100点、面接50点である。

4.2 学生定員の充足状況

年度別の入学状況等は表5-4-1に示すとおりである。推薦選抜と学力選抜を合わせた入学志願者の延べ人数は、平成24年度35人、25年度42人、26年度52人、27年度47人、28年度46人で、5年間の合計は222人である。定員に対する志願者倍率は平均2.78倍であり、就職状況や大学編入状況が順調な状況下であって、安定した志願者数を確保している。推薦選抜と学力選抜を合わせた全合格者の数は5年間の合計で155人であり、実質倍率は1.45倍となる。平成25年度と26年度に各1人が入学を辞退しているが、合格者に対する入学者率はほぼ100%である。また、推薦選抜での合格者は5年間の合計で81人であり、全合格者に対する推薦選抜合格者の割合は50%を超えている。

年度別の在籍者状況等は表5-4-2に示すとおりである。定員に対する充足率は、平成23年度197%、24年度178%、25年度175%、26年度200%、27年度216%であり、平均すれば193%となり、定員のおよそ2倍である。

表5-4-1 年度別専攻科志願者・合格者・入学状況

年度	学 科	入学 定員	推 薦				学 力				入学者 計
			志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	
24	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻	8	10(0)	10(0)	10(0)	10(0)	9(0)	8(0)	6(0)	6(0)	16(0)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学 専 攻	8	8(2)	8(2)	7(2)	7(2)	8(5)	5(3)	3(2)	3(2)	10(4)
	合 計	16	18(2)	18(2)	17(2)	17(2)	17(5)	13(3)	9(2)	9(2)	26(4)
25	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻	8	8(0)	8(0)	7(0)	7(0)	12(0)	9(0)	6(0)	6(0)	13(0)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学 専 攻	8	8(5)	8(5)	8(5)	8(5)	14(3)	8(1)	8(1)	7(1)	15(6)
	合 計	16	16(5)	16(5)	15(5)	15(5)	26(3)	17(1)	14(1)	13(1)	28(6)
26	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻	8	7(0)	7(0)	7(0)	7(0)	20(0)	12(0)	11(0)	11(0)	18(0)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学 専 攻	8	8(4)	8(4)	8(4)	8(4)	17(5)	14(3)	11(3)	10(3)	18(7)
	合 計	16	15(4)	15(4)	15(4)	15(4)	37(5)	26(3)	22(3)	21(3)	36(7)
27	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻	8	3(0)	3(0)	3(0)	3(0)	23(0)	17(0)	11(0)	11(0)	14(0)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学 専 攻	8	11(4)	11(4)	11(4)	11(4)	10(2)	6(1)	6(1)	6(1)	17(5)
	合 計	16	14(4)	14(4)	14(4)	14(4)	33(2)	23(1)	17(1)	17(1)	31(5)
28	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻	8	12(0)	12(0)	12(0)	12(0)	17(0)	10(0)	5(0)	5(0)	17(0)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学 専 攻	8	8(4)	8(4)	8(4)	8(4)	9(1)	8(1)	7(1)	7(1)	15(5)
	合 計	16	20(4)	20(4)	20(4)	20(4)	26(1)	18(1)	12(1)	12(1)	32(5)

(注) () は女子学生を内数で示す。

表5-4-2 年度別専攻科在籍者状況

年度	専攻	専攻定員	1年	2年	計
23	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻	16	16 (0)	16 (0)	32 (0)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学 専 攻	16	14 (3)	17 (3)	31 (6)
	合 計	32	30 (3)	33 (3)	63 (6)
24	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻	16	16 (0)	16 (0)	32 (0)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学 専 攻	16	10 (4)	15 (3)	25 (7)
	合 計	32	26 (4)	31 (3)	57 (7)
25	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻	16	13 (0)	17 (0)	30 (0)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学 専 攻	16	15 (6)	11 (4)	26 (10)
	合 計	32	28 (6)	28 (4)	56 (10)
26	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻	16	18 (0)	13 (0)	31 (0)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学 専 攻	16	18 (7)	15 (5)	33 (12)
	合 計	32	36 (7)	28 (5)	64 (12)
27	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻	16	14 (0)	19 (0)	33 (0)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学 専 攻	16	17 (5)	19 (7)	36 (12)
	合 計	32	31 (5)	38 (7)	69 (12)

(注1) () 内は女子学生を内数で示す。

(注2) 在籍者数は各年度5月1日時点での状況を示す。

5. 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・準学士課程入学生、4年次編入学生及び専攻科課程入学生のアドミッションポリシーをそれぞれ定め、募集要項やホームページ等に掲載し公表している。
- ・入学後において、学力動向やアドミッションポリシーに沿った学生が入学しているかどうかを継続的に調査分析し、入試選抜方法の改善に役立てている。
- ・中学校教員との懇談会・中学校訪問・オープンキャンパス・学校説明会・中学生対象公開講座・学習塾対象説明会など広範な広報活動を行うことにより、高い資質を持った入学者を確保している。
- ・教務委員会が所轄する入学志願者確保委員会を設置し、高い資質の入学志願者確保の方法を検討し、実施している。
- ・ここ5年間で女子学生数が増加しており、女子中学生へのアピールも一定の成果を上げている。特に以前は女子学生の少なかった学科においても増加が見られる。
- ・専攻科では、推薦選抜での合格者（入学者）は全合格者（入学者）の50%以上であり、優秀な者を早期に確保できていると言える。

(改善を要する点)

- ・相対評価から絶対評価に移行した中学校側の成績評価変更の影響については、今後とも追跡調査を行い、より適切な選抜方法を検討する必要がある。
- ・編入学選抜において、過去5年に志願者ゼロの学科があるため、原因を分析して、優秀な受験者を増やす取り組みが必要である。
- ・女子中学生へのアピールはここ5年間で一定の成果を上げているが、まだ学生全体の中での割合は少なく、今後も継続することが必要である。
- ・志願者確保の方法として、平成27年度から、兵庫県の高등학교の学区再編により受験校の選択の自由度が大きくなったため、本校を受験する生徒の動向を適切に把握し、志願者確保の対策を練る必要がある。
- ・専攻科の学生定員に対する充足率が200%を超えることがあり、講義室等の定員を超える可能性がある。
- ・これまでに社会人の専攻科入学生が1人もおらず、企業への広報活動について検討する必要がある。